

Eureka XIII

六年制通信 No.8 令和7年5月23日(金)号

練習

皆さん、もう万博には行きましたかね。行った人がいたら感想を聞かせて下さい。私は今のところ行く予定はありません。私にとって万博と言えば、やはり 1970 年ですね。あの頃は今のよう、たとえ現地に足を運ばなくても手に取るように映像が流れてくる時代ではなかったの、「万国博覧会」という言葉の響きが何となく神秘的な雰囲気を持って迎えられたと思います。太陽の塔とか人間洗濯機とかはよく宣伝されていましたが、何と言っても月の石が見られるというのが一番の魅力で、5 時間ほど並びましたよ。翌々年に上野動物園に初めてパンダが来たときも長い長い行列ができましたな、そう言えば。月の石は今でも覚えています。当時私は 10 歳でしたから、ほんの 5 年ほど前は、月ではうさぎが餅つきをしていると信じていたのですよ。その月に人類が初めて立ち、石を持って帰ってきたわけですから、そりゃ見なければいけませんよね。私の世代にとってはアポロ 11 号というのは忘れられない名前なのです。三人の宇宙飛行士の名前もまだ覚えています。

子どもの頃は月や火星に行ったり宇宙ステーションを作ったり、そんなことは夢物語で完全に SF の世界だと思っていました。子どもたちの間では、火星にはタコみたいな宇宙人がいることになっていましたし。宇宙でなくても、大航海時代に生きた人々にとっては太平洋や大西洋を船で渡り、見たこともない香辛料などを持って帰ってくるなどということは夢物語だったことでしょう。飛行機で空を飛び、潜水艦で海に潜ることも、先人たちは成し遂げてきました。夢物語、つまり実現不可能とされていたことを人類は可能にしてきました。それが人類の歴史だと言っても過言ではないでしょう。不可能を可能にしてきたのは科学技術の発達と発明ですね。夜を明るくしたエジソンの発明は人間の活動時間を大幅に増やしたでしょうし、それが科学技術の進歩に寄与した面もあるはずですよ。私たちは現在暑さ寒さも克服していますよね。何万年前に人類が火を手に入れたのか知りませんが、その時から一体いくつの不可能を可能にしてきたのでしょうか。

私たち個人のレベルでも不可能を可能にすることはあります。この場合、可能にしてくれるのは科学技術でも発明でもなく「練習」です。私たちは練習することによってできなかったことができるようになります。初めは全く泳げなかった人が練習を重ね、ドーバー海峡を泳ぎ切ることができるようになります。これは野球でもテニスでも剣道でも同じことです。一つのことを繰り返して自分の体に覚えこませることで、体は考えなくても動けるようになります。どんな競技でもプロの精密な動きは練習抜きに

できるはずがありません。競技に合った体形にもなっていくますよね。

以前、駅伝型とマラソン型の話をしたことがあります。科学技術の進歩は典型的な駅伝型です。私たちは先人たちの成し遂げたところをスタートラインとして研究を始めることができます。先人たちの襷を受け取って走りだすのです。飛行機を作る技術ができれば、もう後に戻れません。人類が持った技術を発展させ、もっと安全にもっと速く飛べるように研究するわけです。しかし、個人のレベルの「練習」は、例えば先人の成し遂げた記録を自分が引き継ぐことはできません。私たちは先人たちがスタートしたのと同じ地点から始めなければなりません。ある野球選手がホームランを40本打ったからといって、自分が41本目から始めることはできないわけです。

また、運動だけではなく学習面でも私たちはマラソン型です。いきなり先人たちの業績から自分の研究を始めることはできません。先人たちが辿ってきた道を自分も歩かないとそもそも先人の成したことを理解できるまでになりません。私たちは根気よく、倦まず弛まず練習することしかできないのです。ただ、先人に習うということはできます。「習」は羽に白と書きますが、これはヒナが親を真似て飛翔を習う姿だそうです。優れた師を得て素直に学べば、少なくとも自分の精いっぱい努力できると思います。皆さん、素直に、そして辛抱強く練習を続けて下さい。

今週のおすすめ

・梅田星也 『日本語先生奮闘記』 (大修館書店)

久しぶりにゲラゲラ笑いながら読みました。しかし、帯にある「面白うて、やがて…」の通り、次第に笑っていられなくなり外国人の感じる日本語の難しさや、私たち日本人は外国語をどのようにして修得すべきなのかといった問題が重くのしかかってきます。これ、国語の先生にぜひ読んでほしい本です。

著者は英語の先生で、中国にわたり現地の学生に日本語を教えています。学生たちのミスが楽しくて、笑いながら読めるのですが、さてでは自分が教師なら彼らの疑問に何と答えるか、ほとんどの場合途方に暮れると思いましたね。

彼らの質問を二つだけ紹介しましょう。「先生、にととは同じですか」と聞かれて何のことかと思ったら「氷は溶けて水になる」と「氷は溶けて水となる」は同じ意味かと聞いたかったということ。諸君、これ、どう答えますか。もう一つ。「病気で欠席した」「病気のために欠席した」「病気なので欠席した」「病気の故に欠席した」「病気に付き、欠席した」、これらの差を全部説明してください、との質問。諸君、できますか。できれば私に教えてほしい。次に、日本語が一字に込めるニュアンスはとてもしゃべれないという問題です。「彼は背は高い」のはには、その次に「しかし…」と、何か否定的な言葉が用意されているものですが、これがなかなか理解されないようです。また、「雨もやんだし、さあ出発しよう」のものもつニュアンスも難しいらしく「雨がやんだし、…」でないと学生たちはわからないらしい。君たちが英語の勉強で感じる疑問もネイティブから見れば似たようなものかもね。

BGMは Katy Perry の *Firework* でした…。